

チェルシーフラワーショーとは
What's? Chelsea Flower Show

チェルシーフラワーショー (Royal Horticultural Society - Chelsea Flower Show) とは、英国王立園芸協会の主催により、毎年5月にチェルシー(ロンドン市内)で開催される伝統行事であり、1913年以来続く世界最古にして最も権威のあるガーデニング&フラワーショーです。ロイヤル・チェルシー病院の広大な敷地内に、600もの出展者がそれぞれのジャンルに分かれた庭園などを出展し、期間中は20万人以上の人々が来場。イギリスのみならず世界が注目する一大イベントとなっています。



二度目の参加となる「チェルシーフラワーショー2006」にて、石原和幸氏が日本人で初めて受賞したゴールドメダル

「門司港ホテル」に
 緑でデザインされた、
 新しい部屋を作りました。



英国3年連続ゴールドメダル獲得のガーデナー、石原和幸氏プロデュース

「ガーデンルーム 門司港園」

Garden Room MOJIKOEN

7/30 (sat) NEW OPEN!!

※写真のガーデンは、本年度の「チェルシーフラワーショー2011」にてシルバーギルトメダルを受賞した作品『花の楽園-緑の詩を聞かせたい』

宿泊付きで申し込むと、さらにお得!!

宿泊付き
 セミナー
 プラン

7/29(金) 宿泊の場合

【料金】
 お一人様 11,000円
 (セミナー参加費+1泊朝食付)
 ※ツインルーム1室2名様ご利用での1名様料金
 ※1室1名様ご利用の場合は、+2,000円



7/30(土) 宿泊の場合

【料金】
 お一人様 19,000円
 (セミナー参加費+1泊2食付)
 ※ツインルーム1室2名様ご利用での1名様料金
 ※1室1名様ご利用の場合は、+2,000円
 ※夕食は、メインレストラン「ポルトーネ」のフルコースディナー



Memorial Event Information

7/24 (sun) 予約制

ひと足お先に、「最新ガーデン」を体感!
 「門司港ホテル」
 サマーブライダルフェア開催!
 ※参加無料

一般公開にさきがけて、「ガーデンルーム門司港園」を体験できるブライダルフェアを開催します。世界で活躍する名ガーデナー、石原和幸氏による緑と四季の彩りに富んだ門司港レトロの新名所を、祝福のセレモニーとともに、たっぷりと満喫! おふたりの華々しい門出と、祝宴へと続くプロダージュの舞台として、ぜひご来園ください。

【スケジュール】

- 1st -----
 ●10:45~ ステア挙式 ~模擬挙式~
 模擬披露宴&ミニコース試食
 ●11:15~
 ●13:00~ 相談会
 2nd -----
 ●15:45~ ステア挙式 ~模擬挙式~
 ●16:15~ 模擬披露宴&ミニコース試食
 ●18:00~ 相談会



終日開催

- ・新作コーディネート会場見学
- ・チャペル、神殿見学
- ・新作インポートドレス展示&試着体験
- ・各種相談会 etc.

【御予約・お問合せ】
 ブライダルカウンター tel. 093-321-1177

7/30 (sat) 予約制

世界に誇るガーデナーの寄せ植え実演パフォーマンスも!
 石原和幸氏の
 ガーデニングセミナー開催!

[12:00~14:30]

ついに「ガーデンルーム門司港園」がグランドオープンします!それを記念して、石原和幸氏による寄せ植えの実演パフォーマンスも目の前で見るガーデニングセミナーを開催!セミナー後には、ホテルシェフによるランチbuffetを堪能しながら、世界を魅了する名ガーデナー、石原和幸氏の芸術的なガーデンでのひとときをお楽しみいただけます。

【人数】80名様限定
 【参加費】5,000円(ランチbuffet付)

【スケジュール】

- 12:00~13:00 ガーデニングセミナー & 実演パフォーマンス
- 13:00~14:30 ランチbuffet

【御予約・お問合せ】 門司港ホテル営業課 tel. 093-321-5551

門司港のみならず、北九州の新名所となるべく誕生する「ガーデンルーム門司港園」は、どのようなストーリーで生まれたのか？
門司港ホテルをプロデュースする葛和伸隆氏と名ガーデナー石原和幸氏が明かす、ふたりと庭を巡る、意外な物語の始まりとは・・・。

「福岡を花と緑で埋め尽くしたい」という思いを持っていた。

葛和 石原さんと初めてお会いして随分経ちますね。
石原 もう20年ぐらい前でしょうか。当時は大変お世話になりました・・・そして今もこうしてお世話になるわけですけど(笑)。

葛和 とんでもない、こちらこそお世話になります(笑)。あの頃は、ちょうど石原さんが福岡で花屋を展開することを考えていらっしやった頃ですね。

石原 はい。そこで葛和さんのホテル(ホテルイル・パラッツォ)裏にあるプレハブの建家に事務所をお借りして。

葛和 そうでしたね。本当にあの頃から変わっていらっしやらない。元気でとにかく前向き。長崎ではリヤカーを引きながら花を売っていらしたとお聞きして、すごい情熱をお持ちの方だと思っていました。

石原 福岡に来たときは、この街を花と緑で埋め尽くすぞ!という意気込みでしたね。

葛和 当時は、ガーデナーではなく花屋さんでしたね。ただ、花のあしらい方は素晴らしい。今では常識のいわゆる「ミニブーケ」を、石原さんは既に、あの当時からやってらした。

石原 ちょっと早すぎました(笑)。

葛和 だから僕はずっと、花屋でいかれるものだと思っていました。ところが今は世界的なガーデナー。いつから、庭に関わるようになったのですか？

パッキンガム宮殿のエリザベス女王に電話したんです

石原 店先で花の苗を並べていたら、あるお得意様に「石原さん、お庭は造れますか?」と訊かれて、

まったく経験は無かったですか?口はもう「庭は得意なんです」と言ってしまう(笑)。それで庭を造ったら、とても誉めてくださって。さらに「煉瓦は積めるの?」とお願いされて「煉瓦が得意なんです」と(笑)。そしたらまたみなさんに誉めていただいて。それから庭造りの面白さに魅了されて、猛勉強を始めたんです。

葛和 久しぶりに石原さんとお会いしたのは、テレビでした。

石原 そうです、テレビ東京さんの「テレビチャンピオン」。あれに出演してから庭造りの仕事が増えました。次に考えたのが、ハリウッド映画とか大型施設のガーデンを手掛けるためには、僕は何をすればいいんだろう、ということ。その時に耳にしたのが、イギリスで開催されているチェルシーフラワーショーでした。庭師のワールドカップ的なイベントらしく、これに出場すれば未来が切り開けるかもしれない、と考えたわけです。これはとにかく、一度見に行こうということになり、渡英しました。そこで目の当たりにしたのが、日本と英国～世界の庭についての考え方、関心の高さの違いでした。イギリスでは国民の95%の人が庭造りを趣味にしている、まるで国技。庭の中に国がある、という感覚なんです。ショーでは、各国の首脳が自国出展の庭の前に立ってスピーチをしている。つまり、国が出場者のスポンサーとなっているわけです。聞いたら、とんでもない額なんです。

葛和 ショーには誰でもが出演できるわけではない、と。

石原 はい。僕もその時は、絶対に無理だと思いました。ただ、帰国して社員から心配そうな表情で「どうでしたか?」と訊かれて、「いいぞ。これはいける。来年出場するぞ」と、またやってしまった(笑)。でも、そもそも参加のしかたが分からない。途方に暮れる前に行動してしまう性格なので、大会の総裁をされているエリザベス女王に電話して訊けばいいんだと(笑)。

葛和 繰り返しますが、本当に昔から変わっていらっしやらない、その前向きさは(笑)。

石原 実際にパッキンガム宮殿に電話しました。

Interview Face to Face

石原和幸氏 × 葛和伸隆氏



石原 「このガーデンは、花と緑に彩られたもう一つのホテルの部屋なんです。」

葛和 「ガーデンのある新しいライフスタイルを門司港から日本へ、発信していきたい。」

もちろん、女王とは話せませんでしたけど、参加のしかたは分かりました。すると、突然、ロイヤルメールが届いた。これは大変だと。長崎県知事に電話して会見を開いた・・・んですけど、メールはただの参加申込書(笑)。もう、後には引けない。どうかお金を工面して、とにかく参加することはできた。けれど、指定されたホテルは1泊5万円。20人引き連れて行きましたから、宿泊費だけでかなりの出費なわけです。ショーに参加するまでに、予算は底をついてしまった。仕方なく、他国の出場チームに長崎名物のカステラなんかをお礼に渡して、代わりに砂や道具を譲ってもらったりしていたら、「ガーデン難民がいるぞ」と話題になってしまった(笑)。タイムズやらBBCがこぞって取材にくるわけです。当然、造っている庭にも注目が集まる。あいつら、ただ者じゃない、という雰囲気なんです。それはそうです、だって僕らは片道キップの覚悟で来ているわけですから。現実的にもその状況でしたし(笑)。結果は準優勝にあたるシルバーギルトを受賞。これは日本でも大変なことになっているぞ・・・!と意気込んで帰国したら、お出迎えは会社の軽トラックがボツンと一台あるだけ。これでまたやる気が火が付きました。

葛和 そうして翌年に見事ゴールドメダルを受賞し、それから史上初の3年連続ゴールドメダル受賞の荣誉に輝くわけですね。

石原さんが初なら、この庭は世界初の庭ってことになりませぬ

石原 ありがとうございます。目出度くエリザベス女王ともお友だちになれました。チャールズ皇太子の紹介でシンガポール政府の仕事をやらせていただいたり、今は1年の内4ヶ月は海外で仕事をしています。しかし、葛和さんからの電話は、本当にうれしかった。ついに一緒に仕事ができるんだとワクワクしました。

葛和 石原さんに庭を作っていただくホテル2階の中庭は、ただ煉瓦を敷いた風景のない場所でしたから、何かを作りたい。そこで出てきたのが「ガーデン」というキーワード。北九州市は2008年に国から環境モデル都市に選定されていますから、僕らもそ

れをカタチで表現できないかと考えたんです。じゃ、誰に庭をデザインしてもらうんだ、となりまして。その時に、真っ先に頭に浮かんだのが、その笑顔(笑)。石原さんだったんです。

石原 いやあ、本当にうれしい。

葛和 お忙しいのに快諾くださって、僕もうれしかった。
石原 いいえ、何を差し置いてでも門司港ホテルだ、北九州だ、葛和さんだ(笑)、という熱い思いが、どんどん沸き上がってきましたから。

葛和 実際に現場を見られて、どう思われました?

石原 一目見て、ある風景が頭の中に広がったんです。それは、花と緑に彩られたもう一つのホテルの部屋、というイメージ。イギリスで庭仕事はファッションなんです。みんなお洒落して手入れをし、紅茶を飲み、会話を愉しむ。ここがそんなホテルの新しい部屋になれればいいな、という発想へ繋がっていきました。

葛和 素敵ですね。日本で庭という愛でるという印象が強いのですが、人が集い語り合うという、今ブームとなりつつある新しいガーデンの価値観をここから発信していければ、うれしいですね。それにしても、あの花のアーチは見事です。美しい。

石原 葛和さん、あれは初めての試みなんです。僕にとって。普通アーチといえば切り花を使うんですが、中に土を仕込み全体にコケを根付かせてそのまま花が自生するようにしているんです。つまり、この庭は生きているんです。

葛和 石原さんが初なら、世界初の庭が「門司港ホテル」に登場、ということになりますね(笑)。そんな素晴らしい庭を眺めながらレストランで食事ができるとなると、ホテルにとっても魅力に幅が広がると期待しています。何より、この庭の登場によって、門司港がアーバンリゾート地として広く認知されることと、ガーデンを意識した新しいライフスタイルを皆さんに広くご紹介できることに、胸が躍る思いです。

石原 ありがとうございます。7月30日(土)に開催されるオープニングセレモニーと同時に開催される僕のセミナーにも、皆さんご期待いただきたいですね。

平日1日
7組限定!

Summer garden Lunch Plan

サマーガーデンランチプラン

【期間】 8/1～8/31

【料金】 お一人様2,887円(税・サ込)

【ご予約・お問合せ】
メインダイニング ポルトーネ tel. 093-321-6662

美しいガーデンを眺めながら、野菜とハーブの爽快フレンチを。

天才ガーデナー、石原和幸氏による美しいガーデンを眺めながら、メインレストラン「ポルトーネ」の野本料理長による野菜とハーブにこだわったフレンチをご堪能いただける、とても贅沢なランチプランです。ガーデンの風景とリンクするような優雅で生き生きとした盛り付けとその味わいは、ひとときあなたを花と緑の世界へ誘います。素材はすべてその日に仕入れた旬のものを使用するなど、シェフのこだわりが隅々まで行き届いた「美味しいガーデン」を、存分にお楽しみください。お席は、ガーデン側7席のみ。ご予約はお早めに!

MENU(全6品)

- ・ウエルカムスープ(冷製) ・野菜とハーブを使ったオードブル ・当日のハーブを使ったメイン料理(肉or魚をチョイス)
- ・サンドウィッチ ・ヒアルロン酸を使ったデザートと季節のシャーベット、米粉ケーキの盛り合せ ・季節のハーブティー



Profile

石原 和幸 Kazuyuki Ishihara
RHS 英国王立園芸協会会員 石原和幸デザイン研究所 社主

1958年、長崎県生まれ。22歳で生け花の本流「池坊」に入門。以来、花と緑に魅了され路上販売から店舗、そして庭造りを展開。その後、苔を使った庭で独自の世界観がガーデニングの本場イギリスの伝統行事「チェルシーフラワーショー」で高く評価され、2006年から史上初となる3年連続金メダルを受賞。さらに2008年に開催された過去のゴールドメダル受賞者のみが参加できる「シンガポール・ガーデン・フェスティバル2008」に出場し、ランドスケープガーデン部門ゴールドメダルを受賞。2010年にはショーガーデン部門にもチャレンジ。全国で壁面緑化事業を手がけ環境保護にも貢献するなど、多方面で活躍中。

Profile

葛和 伸隆 Nobutaka Kuzuwa
ジャスマックホテルズ 総代表

1965年、東京都生まれ。カナダのトロント大学で経済学を学び、帰国後、大阪ワールドトレードセンタービル内の結婚式場プロデュースや「比叡山ホテル」のリニューアルプロジェクトに従事。1999年、関連会社を統一し、株式会社ジャスマック代表取締役に就任。現在、日本では4番目の“SLH(スモールラグジュアリーホテルズオブザワールド)”加盟となる「ホテルイル・パラッツォ」や「門司港ホテル」など5棟のホテルと、九州・沖縄・広島などのバイキングレストラン「アレック」8店を展開。また、最強ホテルマンを特集した書籍「ザ・ホテルエ」では、日本の最強ホテルエ9人の1人として紹介されている。

